

上山市農業再生協議会	2	上山市仙石地区	水稻	①規模拡大にあたりリース方式で高性能機械を導入するとともにフル育苗技術を実施して作業効率を向上する。これらによって単位面積当たり労働時間を削減する。 ②肥料、農薬等の物財費を削減して生産コストを削減する。 ③中間管理機構を活用した農地集積と規模拡大を行う。	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	110,276円/10a	5.1	ha	27,907	kg	H31	99,138円/10a	6.7	ha	36,662	kg	R1	86,079円/10a	5.3	ha	30,870	kg	確定申告書、作業日誌等の関係資料により検証	217.2%	生産コストの削減については、高性能機械導入による作業効率化や肥料費等の経費削減努力より目標を達成できた。面積については、周辺農地活用に関する他農業者との調整の関係で微増に留まり、目標面積に至らなかった。生産量については、面積が微増に留まったことや作付銘柄の変更等により、目標生産量に至らなかった。今後、復田や中間管理機構の活用により面積を増加させながら、高性能機械による作業効率化や経費削減努力をさらに強化し、生産量の増加につなげていく必要がある。	成果目標は達成できたが、作付面積・生産量の増加目標の達成率は、概ね8割程度にとどまったため、地域協議会に対し、中間管理機構を活用した農地集積と規模拡大に努め、作付面積の拡大と生産量の増加、併せて作業効率の向上を図りながら、引き続き計画的に取り組むよう指導を行った。
中山町農業再生協議会	2	長崎地区及び豊田地区	大豆	①既存機械では能力が足りず、効率的な作業ができなかったため、高性能なコンバイン及びトラクターの導入により機能強化を図り、作業効率を高め、労働時間を削減する。 ②高性能なコンバイン及びトラクターの導入により適期作業を実施し、品質向上及び生産量の確保を図る。 ③肥料や農薬を安価なものに切替え、物財費を削減する。	生産コストの10%以上の削減【11.2%削減】	H28	70,153円/10a	81	ha	152,430	kg	H31	62,324円/10a	82	ha	160,000	kg	R1	80,659円/10a	82	ha	出荷量150,810	kg	営農計画書・出荷伝票や収支決算書、作業日誌及び税務申告書等の資料により生産コストの確認・検証を行う。	-134.2%	連作障害への対応と天候の影響による雑草対策のため、人件費及び除草剤代と肥料代がかかりコスト削減に至らなかった。また機械の故障等によりシルバー人材への除草の依頼や機械を他組合から賃借するなどの経費がかかった。今後は適期に防除することや計画的に機械を更新していく。作業効率の向上と人件費の削減を図るなど目標達成に向けて努力を続けていく。また連作障害対策として、リン酸やマイ酸が含まれる土壌改良剤を投入し、土壌のpH値の矯正を図っていく。組合員にも情報を共有し常にコスト削減を意識し、適期作業、適期防除を行うよう指導した。	機械導入で作業効率が向上した一方、天候不良や雑草害で追加の防除や手作業が増えた結果、生産コストがかさみ成果目標を達成できなかった。今後は、適期作業、適期防除を徹底して薬剤費や人件費の削減をするよう指導を行った。
河北町農業再生協議会	3	河北町(西里地区、北谷地地区)	水稻	①高性能農業機械の導入により作業効率を高め、労働費を削減する。 ②作業効率の向上に伴い、規模拡大を行う。 ③生産に必要な肥料や農薬といった資材の購入方法を直直し、物財費を削減する。 ④圃場管理システム等の導入研究し作業効率の向上を図る。	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	101,857円/10a	70.2	ha	442,260	kg	H31	91,621円/10a	82	ha	505,890	kg	R1	87,500円/10a	72.5	ha	457,475	kg	営農計画書・出荷伝票や収支決算書、作業日誌及び税務申告書等の資料により生産コストの確認検証を行う。	140.3%	面積及び生産量が目標達成できていないが、生産コストは目標を達成出来た。地域協議会に対し、引き続き作付面積の拡大、生産量の増加に向け、計画的に取り組むよう指導を行った。	成果目標については達成できたものの、作付面積・生産量の増加目標の達成には至らなかったが、概ね9割で目標を達成できていたため、地域協議会に対し、引き続き作付面積の拡大、生産量の増加に向け、計画的に取り組むよう指導を行った。
大石田町農業再生協議会	3	大石田町大浦	水稻	①規模拡大にあたりリース方式で高性能機械を導入し、作業効率の向上を図って単位面積当たり労働時間を削減する。 ②肥料、農薬等の物財費を削減して生産コストを削減する。 ③中間管理機構を活用した農地集積と規模拡大を行う。	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	92,922円/10a	8.24	ha	46,968	kg	H31	83,574円/10a	11.37	ha	64,809	kg	R1	154,444円/10a	9.68	ha	55,176	kg	作業日誌及び税務申告書等の資料により生産コストの確認・検証を行う。	-658.1%	前年度は生産コストの改善を図られたが、R1に突如発生した播種機の故障による機械更新や県営土地改良事業の実施により作付面積が減少(転作:自己保全管理)したため、農業機械の10a当たり減価償却費が増え達成率の大幅減少につながったほか、カメムシ被害が懸念される状況から防除回数を増やしたところ農業者が例年よりも増加したため、生産コストの削減が目標を大きく下回った。R1に転作面積の適年施工であった284.0aの水田は、R2に作付面積216.8a、転作面積67.2a(飼料用米27.9a、そば37.7a、一般野菜1.6a)となり通常作付となる。また、肥料及び農薬の購入の際は、販売業者の見積比較を実施し、より安価な方から購入していること、散布方法については、発生争奪による効果的な防除を実施すること等の改善を図りながら、更なる物財費の削減に努めていることなどを評価するとともに、目標達成に向けて指導していく。	前年度は生産コストの改善が図られたものの、令和元年度において播種機の故障による機械更新や県営土地改良事業の実施により作付面積の減少(転作:自己保全管理が増加)の影響もあり、農業機械の10a当たりの減価償却費が増えたことに加え、カメムシ被害防止に対応した防除回数の増加で農業者が増え目標達成に至らなかった。しかし、土地改良事業の終了に伴い令和2年度の水稲面積は2.16ha増え11.84haとなり目標面積(11.27ha)に達する見込みである。単位面積当たりの作業効率の向上が見込まれ、労働時間の削減が期待できることや、使用する肥料・農薬の購入方法について、販売業者の見積比較を適宜適切に実施し、より安価な肥料・農薬を購入すること、散布方法については、発生争奪による効果的な防除を実施すること等の改善を図りながら、更なる物財費の削減に引き続き取り組むよう、地域協議会に対し指導を行った。

大蔵村農業再生協議会	3	大蔵村	そば	①高性能汎用コンバインの導入による生産規模の拡大 ②高性能汎用コンバインの導入による刈取作業の効率化 ③高性能汎用コンバインの導入による適期刈取(品質向上) ④農地中間管理事業を活用した農地集積による作業の効率化	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	29,255円/10a	82.3	ha	49,230	kg	H31	26,305円/10a	83.8	ha	50,106	kg	R1	24,852円/10a	92.6	ha	80,955	kg	149.3%	農地中間管理事業を活用しながら地域内の集積を行い、目標数値より遥かに大きい面積拡大が図られている。今後も規模拡大を図り、コスト削減に努めていただきたい。	農地を効率的に集約して目標を達成している。今後更なる面積拡大、コスト低減にも期待したい。
大蔵村農業再生協議会	4	大蔵村 合海	飼料用米	①高効率乾燥機の導入による受託面積の拡大 ②高効率乾燥機の導入による乾燥調整作業の効率化 ③直播栽培技術の実施による作業の効率化 ④農地中間管理事業を活用した農地集積による作業の効率化	生産コストの10%以上の削減【10.0%削減】	H28	107,808円/10a	3.8	ha	-	H31	97,006円/10a	5.1	ha	-	R1	89,748円/10a	4.2	ha	-	167.2%	乾燥機の導入により生産コストの削減が図られており、取組主体の面積も着実に規模拡大しているが、共同取組者の面積が都合により減少しており、全体の面積としては減少している状況にある。来年度においては、確実に面積拡大を図り、コスト削減に努めていただきたい。	本事業での乾燥機の導入により生産コストの削減が図られており、取組主体の面積も着実に規模拡大しているが、全体の面積は減少している。地域協議会では今後の面積拡大に向けた取組、経費の削減について継続的に指導いただく。			
米沢地域農業再生協議会	2	米沢市 窪田・六郷地区	露地野菜 (えだま め)	・ラジコン動噴導入による作業効率の向上と高品質生産の取組 ・色選機導入による労力・人件費削減を図る取組 ・転作田を有効活用した作付面積の拡大、高品質・省力栽培技術の普及	生産コストの10%以上の削減【10.6%削減】	H28	343,347円/10a	5.3	ha	-	H31	306,951円/10a	6.5	ha	-	R1	364,265円/10a	5.45	ha	16,197	kg	-57.5%	ラジコン動噴導入により、作業効率は向上し、色選機導入により選別作業時間の削減等でコスト削減できている部分もあるが、作付面積減少に伴い、全体的なコストとしては現状値を上回っている。 成果目標を取組主体と改めて確認し、転作田の活用について優先的にえだまのための作付をする計画を立て、今後の作付面積を拡大し、コスト削減に取り組むよう指導する。	機械導入による効果は見られるものの、作付面積が目標値を下回っており、成果目標は未達となった。 地域協議会に対して、面積拡大や作業時間の短縮等により、単位面積あたりのコスト削減を進め、引き続き成果目標の達成に向けて取り組むよう指導した。		
米沢地域農業再生協議会	3	米沢市 広幡・南原・塩井地区	水稻	①高性能機械導入による作業効率向上 ②直播栽培の拡大や導入による生産コスト削減 ③中間管理機構を活用した農地集積による作業効率向上 ④肥料、農薬等を安価なものに替え、物財費削減	生産コストの10%以上の削減【10.6%削減】	H28	146,918円/10a	55.2	ha	311,994	kg	H31	131,296円/10a	64	ha	362,300	kg	R1	148,898円/10a	65.3	ha	370,476	kg	-12.7%	水稻の作付面積は計画どおり拡大できたが、「つや姫」「雪若丸」の作付増加により、直播栽培の拡大が進まなかった。今後もブランド米の作付は増加し、直播の発芽率が低い粟穂から収量確保のため拡大が難しい現状ではあるが、育苗コストに鑑み、栽培方法の見直しを図る。 高性能機械を導入したことで作業効率は向上しているが、光熱動力費などの数値としては現れていない。農業薬剤費等の物財費を抑えることでコストを削減できている部分もあるが、老朽化した機械の更新や修理代などの費用により、全体的なコストとしては現状値を上回っている。 農業器具等の機械のコストは、老朽化により今後も当初の想定よりかかると思われるが、営農計画提出時に申告書と併せて現状の経営を確認することで、コスト低減できる部分を共有し、機械の共同利用や施肥方法の見直しなどを含めたコスト低減に継続して取り組み、翌年には目標達成できるように指導した。	農業薬剤費などのコストを削減することで削減できている部分もあるが、機械の更新費や修理代などの想定していなかったコストが増えたため目標達成には至らなかった。地域協議会に対し現状の経営を確認し今後削減できる部分を中心にコストの削減に取り組むよう指導した。

川西町農業再生協議会	4	小松大塚犬川吉島	水稻	①大型高性能機械のリース導入により作業の効率化を図って労働費を削減する。 ②土地利用集積を図って作業効率を向上し、労働時間を削減する。 ③肥料や農薬等を安価なものに切替え、物財費を削減する。 ④低コスト栽培技術における先進的技術（密苗栽培、鉄コーティング直播等）に取組み、コスト削減方法を確立する。	生産コストの10%以上の削減【10.2%削減】	H27	124,380円/10a	128.7	ha	791,505	kg	H31	111,698円/10a	196.3	ha	1,209,208	kg	R1	105,527円/10a	191	ha	1,180,938	kg	148.7%	産地全体では、目標達成に向けた取組みが概ね順調であることから、当初目標に対する達成率は100%以上となっている。 しかし、取組主体の中にはマイナス評価や達成率が80%を下回っているケースが見られるので、取組主体ごとの課題点を分析し、関係機関と連携しながら支援を行う。	成果目標である「生産コストの削減」については148.7%と図られているものの、面積及び生産量が目標に達していない。取組主体の中にはマイナス評価や達成率が低いケースがあるため、特に達成率が低い主体中心に引き続き目標を達成するように指導した。	
白鷹町農業再生協議会	4	白鷹町蚕桑・鮎貝・東根地区	大豆	①高性能機械の導入により作業効率の向上を図り、単位面積当たりの労働時間を削減する。 ②作業受託及び中間管理機構を活用した作付圃場の連担化と規模拡大を行う。 ③施肥量の見直しと共同購入による安価な肥料・農薬の購入を行い物財費の見直しを行う。	生産コストの10%以上の削減【10.4%削減】	H28	72,298円/10a	35	ha	41,680	kg	H31	64,772円/10a	40.8	ha	60,000	kg	R1	63,101円/10a	40.4	ha	66,350	kg	122.2%	大豆・そばともに目標を達成した。今後もコスト削減の意識を持ちながら取り組んでいただきたい。	大豆・そばともに成果目標である「生産コストの削減」を達成している。また、大豆・そばともに生産量が増加しており評価できる。今後は面積拡大に関しても取組が進むことに期待したい。	
			そば	①高性能農業機械の導入に伴う作業の効率化による労働時間の削減 ②肥料、農薬等の見直しによる物財費の削減 ③受託面積の拡大による規模拡大	生産コストの10%以上の削減【10.3%削減】	H28	44,399円/10a	25	ha	11,835	kg	H31	39,843円/10a	27.7	ha	12,000	kg	R1	33,287円/10a	22.2	ha	16,763	kg	243.9%			
飯豊町農業振興協議会	2	椿地区	水稻	①高性能農業機械の導入に伴う作業の効率化による労働時間の削減 ②肥料、農薬等の見直しによる物財費の削減 ③受託面積の拡大による規模拡大	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	105,283円/10a	27.9	ha	156,000	kg	H31	94,697円/10a	28.9	ha	177,446	kg	R1	97,289円/10a	28	ha	173,040	kg	75.5%	資材の高騰があるなかで、肥料や農薬費等を一括購入するなど工夫して変動費コストは削減したが、農繁期にケガ（右上腕骨折）をしたことが重なり雇用費が計画より40万程度嵩んでしまい75.5%の達成率に留まった。今後も引き続き機械化体系の省力化による効率的な作業体系の確立により更なるコスト削減が可能である。	薬剤や諸材料費を削減することができたが、成果目標である「生産コストの削減」の目標達成には至らなかった。現在の経営状況を見直し、より安価な肥料への見直しにより肥料費の削減や種苗費を抑え、また、作業効率化により光熱動力費の削減など、コスト削減できる部分を中心にこれからもコスト削減の強化を行っていくように指導した。	
鶴岡市農業再生協議会	9	鶴岡市宝谷	そば	・規模拡大に伴い高性能コンバインをリース導入し、作業効率を高めて10a当たり労働時間、物財費を削減する ・農地の集約化（中間管理機構の活用）により、作業効率を高めて10a当たり労働時間、物財費を削減する ・肥料を安価なものに切り替え、物財費を削減する ・排水対策を徹底し、収量の高位安定を図る	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	46,257円/10a	29.07	ha	13,905	kg	H31	41,581円/10a	33.54	ha	16,043	kg	R1	40,090円/10a	31.24	ha	17,054	kg	131.9%	高性能機械のリース導入による効率化等の取組により、生産コストの削減が図られた。	生産コストの削減が図られ、目標を達成した。	
酒田市農業再生協議会	9	砂越	水稻	①規模拡大に伴う高性能機械の導入による作業効率の向上で、労働時間及び燃料費を削減する。 ②農地中間管理機構を通じた、農地集積により、作業効率を向上して労働時間及び物財費を削減する。 ③安価な肥料への切り替え、また、大型規格の農薬（一括購入等）の導入により物財費を削減する。 ④省力技術の直播栽培を拡大することで、育苗や移植作業に係る労働時間及び物財費を削減するとともに生産性向上を図る。	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	116,247円/10a	26.38	ha	164,611	kg	H31	104,467円/10a	31	ha	193,440	kg	R1	99,749円/10a	26.58	ha	163,363	kg	140.1%	成果目標については、年次計画を上回るコスト削減ができており評価できる。 作付面積については、農地中間管理機構を通じた利用権設定により拡大を図る計画であったが、地域内の離農者増加が進まず、伸び悩んでいる。面積拡大を進めていくためには、地域外にも目を向け、条件が合えば受け入れを行っていく必要がある。	生産コストの削減が図られ、目標を達成した。	
酒田市農業再生協議会	10	本楯	水稻	①規模拡大に伴う高性能機械の導入による作業効率の向上で、労働時間及び燃料費を削減する。 ②農地中間管理機構を通じた、農地集積により、作業効率を向上して労働時間及び物財費を削減する。 ③堆肥の利用拡大、安価な肥料への切り替え、また、大型規格の農薬（一括購入等）の導入により物財費を削減する。 ④省力技術の直播栽培（V溝乾田直播）を拡大することで、育苗や移植作業に係る労働時間及び物財費を削減するとともに生産性向上を図る。	生産コストの10%以上の削減【10.1%削減】	H28	94,184円/10a	230.3	ha	1,437,072	kg	H31	84,632円/10a	240	ha	1,497,600	kg	R1	84,705円/10a	259.2	ha	1,878,627	kg	99.2%	コスト削減の成果目標がほぼ達成できており評価できる。取組主体の評価の通り、高性能機械の導入により作業効率が向上し、労働時間や燃料費を削減することにつながっている。 令和元年度の突発的な修繕がなければ、成果目標を十分に達成していたと思われる。	生産コストの削減が図られ、ほぼ目標を達成できた。	

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)		補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県等の評価	備考					
					現状				目標				実績				事業実施前年度	目標年度												
					年度	面積 ha	生産量又は 出荷量 kg	価格(販売単価) 円/kg	生産コスト 円/kg	年度	面積 ha	生産量又は 出荷量 kg	価格(販売単価) 円/kg	生産コスト 円/kg	年度	面積 ha	生産量又は 出荷量 kg	価格(販売単価) 円/kg								生産コスト 円/kg	事業実施前年度	目標年度		
山形市農業振興協議会	2	山形市大町地 東金井南金井山寺 水沢出羽	果樹(さくらんぼ、ぶどう、西洋なし)	さくらんぼの雨よけ施設や加温ハウスの高機能性被覆資材、ぶどうの雨除け施設、西洋なしの整備並びに、暖房機や選果機を導入するほか、栽培技術向上に向けた各種研修会や視察等の実施	販売額の10%以上の増加 【11.2%増加】	H 27	958,868円/10a	11.66 ha	果樹 85,019 kg	果樹 1,314 円/kg	H 31	1,066,743円/10a	11.76 ha	果樹 96,404 kg	果樹 1,301 円/kg	R1	1,160,259円/10a	11.96 ha	108,451 kg	1,279 円/kg	さくらんぼ: 1,889 円/kg ぶどう: 837 円/kg 西洋なし: 320 円/kg	さくらんぼ: 1,679 円/kg ぶどう: 1,093 円/kg 西洋なし: 325 円/kg	さくらんぼ: 1,125 円/kg ぶどう: 766 円/kg 西洋なし: 0.985	1,253.1 60円/10a	確定申告書及び販売精算書等の関係資料により検証	272.8%	施設や機械の導入や、栽培技術向上に向けた研修会を定期的に実施したことにより、目標を達成することができた。しかし、さらなる収益率の向上に向けたことにより、収量の増加又は高品質化による単価の向上を図ることができた。研修会を開催して栽培技術が向上したことにより、組織として販売金額向上に取組み、目標を達成できたことと評価する。			
寒河江市農業再生協議会	2	寒河江市寒河江、南部、栄橋、河北町西里	施設花き(バラ)	栽培施設の機能向上によるバラの生産量の増加、光合成促進機(炭酸ガス発生機)による高品質なバラの生産	販売額の10%以上の増加 【10.0%増加】	H 28	7,655,618円/10a	3.73 ha	バラ 4,030 千本	バラ 70.8 円/本	H 31	8,421,212円/10a	3.73 ha	バラ 4,242 千本	バラ 74.0 円/本	R1	6,559,185円/10a	3.73 ha	バラ 3,508 千本	バラ 69.7 円/本	84 円/本	81 円/本	1.037	6,797.70 5円/10a	確定申告書(農業所得増収支内訳書)または決算報告書等で検証	-112.1%	バラ栽培施設機能向上に向けて導入した資材及び機械については、品質向上に一定の効果はあったものの、海外産との競争による需要低下による市場の取扱数量の減少及び地価の高騰等である市場の販売単価の下落の影響を受け、生産を抑えたことから目標とした販売額を大きく下回る結果となっている。現在の出荷市場のみでは、販売単価に限りがあることから、緊急的な出荷先を確保するとともに、インターネットを通じて販売量の増加に向けた取組を指導した。	事業で導入した資材及び機械は数値化するバラの品質向上(品質)に効果があったと評価する。一方で、海外産との競争による需要低下による市場の取扱数量の減少により販売額・生産量ともに目標を大きく下回る結果となっている。広く需要を開拓することで販売額を向上していく必要があるため、生産管理を徹底することに加え、新たな販路の開拓に取り組みすることで目標達成に努めるよう指導した。		
東根市農業再生協議会	2	東部、高崎	果樹(りんご、西洋なし)	・光センサーを導入することで迅速で精密な測定を行い、高品質な作物を高産時期に出荷し、販売単価の向上と総販売額の増加を目指す取組。 ・高品質安定生産に向けた栽培技術指導への取組を行う。	総販売額の10%以上の増加 【12.2%増加】	H 28	411,886,000 円	50.87 ha	果樹 1,564,257 kg	果樹 263 円/kg	H 31	462,000,000 円	50.87 ha	果樹 1,674,921 kg	果樹 276 円/kg	R1	344,080,719 円	50.9 ha	果樹 1,222,248 kg	果樹 282 円/kg	りんご 266 円/kg 西洋なし 312 円/kg	りんご 261 円/kg 西洋なし 317 円/kg	りんご 1,019 円/kg 西洋なし 0.984	345,655 219円	販売精算書などにより検証	-132.2%	光センサー導入により、高品質出荷、商品の差別化による販売単価向上に取組むことができた。しかし、りんごは黒星病の影響で生産者が出荷できる数量が少なくなり、病害や気象災害に伴う生産量の減少がそれを上回る結果となっている。生産量の向上に向けて防除の徹底と栽培技術の向上に向けた取り組みを確実に実施していくことを指導した。	事業による設備導入により、品質の向上においては単価の向上という点から一定程度の評価はできる。しかし、病害や気象災害に伴う生産量の減少がそれを上回る結果となっている。生産量の向上に向けて防除の徹底と栽培技術の向上に向けた取り組みを確実に実施していくことを指導した。		
河北町農業再生協議会	4	河北町	露地野菜(えだまめ)	ブームスプレー等の導入による肥培管理で、高品質を図り、枝豆収穫機、選別機、袋詰機械等の導入で最速での出荷と集出荷施設の導入で鮮度保持による販売単価の増収を図る。	販売額の10%以上の増加 【10.3%増加】	H 28	146,000円/10a	18.1 ha	えだまめ 40,042 kg	えだまめ 662 円/kg	H 31	161,000円/10a	18.1 ha	えだまめ 42,162 kg	えだまめ 692 円/kg	R1	180,700円/10a	18.4 ha	50,808 kg	656 円/kg	800 円/kg	892 円/kg	0.897	162,484 円/10a	確定申告書の農業所得増収支内訳書、JAなど販売店精算書、支払証明書等により検証	109.9%	販売単価は昨年度より下がってしまったものの、選別機械等の活用により栽培面積の拡大及び選別管理が可能となったことが生産量の増加につながり目標を達成することができた。販売額についても目標を達成できた。引き続き品質向上に向けた取り組みを継続することで販売単価の増加に取り組むよう指導した。			
朝日町地域農業再生協議会	2	柏原	果樹(ぶどう)	雨よけ施設の整備栽培研修会の開催 防除体制の充実にによる過期防除	販売額の10%以上の増加 【10.1%増加】	H 28	534千円/10a	3.5 ha	ぶどう 34,368 kg	ぶどう 540 円/kg	H 31	588千円/10a	3.5 ha	ぶどう 38,024 kg	ぶどう 540 円/kg	R1	688千円/10a	3.5 ha	ぶどう 35,599 kg	ぶどう 676 円/kg	1,044 円/kg	1,081 円/kg	0.966	664千円/10a	確定申告書及び販売精算書の関係書類で検証	240.7%	雨よけ施設導入により品質の向上につながり単価アップにつながっている。栽培管理研修会を7月、11月に開催し生産技術の向上を図った。また、栽培技術向上に向けた研修会や防除に係る取組みも品質向上につながっていると考えられるため、今後も継続して取組みを実施するよう指導した。			
大江町地域農業再生協議会	1	本郷	露地野菜(えだまめ)	中耕・施肥・培土・播種作業の効率化及び作物の収量・品質を向上させるため、ミッドマウント管理作業車等をリース導入する。生協等と販売契約を結び、高品質の枝豆を納品することで、販売額の向上を図る。	販売額の10%以上の増加 【17.4%増加】	H 28	224,000円/10a	4.38 ha	えだまめ 18,294 kg	えだまめ 600 円/kg	H 31	263,000円/10a	4.9 ha	えだまめ 17,885 kg	えだまめ 719 円/kg	R1	281,000円/10a	4.959 ha	17,869 kg	740 円/kg	806 円/kg	892 円/kg	0.904 (市場出荷分)	264,000 円/10a	JA精算書による販売額の検証 共済組による面積の確認	102.6%	本事業により適切な農作業を行ったことで販売額を増加させることができた。目標を達成することができた。今後は、圃場の団地化や出荷時期を分散させることで、生産者への対応について検討していききたい。	本事業で導入した機械により、圃場拡大が可能となり、産地が拡大した。また、効率化により過期管理を実施でき、目標を達成することができた。産地全体として取組みが実施されたことと評価する。		

大江町地域農業再生協議会	2	本郷南山	果樹(もも、すもも)	スピードスプレーヤーの共同利用により、通期防除を行い作物の品質向上を図る。	販売額の10%以上の増加【10.5%増加】	H 28	439千円/10a	4.0 ha	もも・すもも 26,200 kg	もも・すもも 669 kg	円/kg	27,720	699	H 31	485千円/10a	4 ha	もも・すもも 27,720 kg	もも・すもも 699 kg	円/kg	27,720	699	R1	670千円/10a	6.1 ha	86,400 kg	473 kg	円/kg	331	400	もも・すもも 395	もも・すもも 552	円/kg	0.628	0.716	536千円/10a	JA精算による販売額の検証 確定申告書及び販売精算書の関係書類により検証	210.9%	本事業により通期防除を実施し、出荷できる品質を確保し、ことにより販売量を増加させることができた。あわせて耐病性のすもも産地に対する取り組みにより出荷量が増加している。南山研究会对しては販路の拡大、後継者の確保や果樹の改植等の取組に対して支援を継続してきたい。	本事業により通期防除が実施され、商品として出荷できる品質が向上し、目標達成に至らなかった。今後は、産地の維持拡大と販路の向上のために、販路拡大や後継者育成等を実施するように指導した。
大石田町農業再生協議会	2	大石田町	果樹(さくらんぼ)	雨よけ施設の導入による高品質安定生産での収量増加、担い手への圃地の集積、労働力の確保、栽培方法の普及・徹底	販売額の10%以上の増加【10.1%増加】	H 28	22.0万円/10a	6.4 ha	さくらんぼ 9,713 kg	さくらんぼ 1,449 kg	円/kg	10,697	1,449	H 31	24.22万円/10a	6.4 ha	さくらんぼ 10,697 kg	さくらんぼ 1,449 kg	円/kg	10,697	1,449	R1	26.6万円/10a	6.4 ha	8,991 kg	1,897 kg	円/kg	1,655	2,482	円/kg	0.667	17.8万円/10a	確定申告書及び販売関係書類による	-189.2%	雨よけハウスの設置により、生産量が伸びず、目標達成に至らなかった。取組状況としては、事業効果として品質向上につながり果樹の向上に努めていると考えられる。今後は生産量の増加及び栽培技術に向けた取り組みを継続して実施することを指導した。また、鳥獣被害に対しては防鳥対策についても適切に実施する。	気象状況の影響により、生産量が伸びず、目標達成に至らなかった。取組状況としては、事業効果として品質向上につながり果樹の向上に努めていると考えられる。今後は生産量の増加及び栽培技術に向けた取り組みを継続して実施することを指導した。また、鳥獣被害に対しては防鳥対策についても適切に実施する。			
最上町農業再生協議会	5	最上町全域	にんにく	①自主ブランドソノワ(肥料散布機)の導入による施設の効率化と均一化を図り、生産規模拡大と収量増加を図る。②早高マルチ(マルチローラー)の導入による定植準備作業の効率化と省力化により生産規模の拡大と出荷量の増加による産地強化を図る。	販売額の10%以上の増加【28.4%増加】	H 28	169千円/10a	1.1 ha	にんにく 1,991 kg	にんにく 208 kg	円/10a	1,090	208	R1	217千円/10a	1.7 ha	にんにく 3,213 kg	にんにく 1,150 kg	円/10a	1,150	1,150	R1	230千円/10a	1.81 ha	にんにく 3,800 kg	にんにく 1,100 kg	円/kg	1,175	574	円/kg	2,047	472千円/10a	青色申告決算書、営農計画書より販売額の増加を確認する。	631.3%	作業機械の導入により、作業の効率化が可能となり、効率的に作業することができるようになり、生産量の増加が期待される。現状では病害対策等の課題があるため、圃場環境の整備に努めることで更なる出荷量の増加が見込まれる。	本事業で機械を導入したことで作業を簡易化し、効率的に作業を行うことが期待される。現状では病害対策等の課題があるため、圃場環境の整備に努めることで更なる出荷量の増加が見込まれる。			
舟形町農業再生協議会	2	舟形町全域	アスパラガス	①自作パラガス産地の形成の推進 ② 作付面積拡大と栽培技術の向上で低コスト化を図り、農業所得の向上を目指す。 ③ うね整形機の導入によりマルチ作業を効率的に行い、低コスト化を図る。 ④ 長期栽培に耐えうる支柱と灌水設備の導入により、安定した収量を確保する。	販売額の10%以上の増加【13.2%増加】	H 28	600千円/10a	0.38 ha	72n'3g's 2,115 kg	72n'3g's 1,077 kg	円/kg	1,991	1,077	R1	679千円/10a	1.18 ha	72n'3g's 8,900 kg	72n'3g's 900 kg	円/kg	900	900	R1	999千円/10a	1.18 ha	72n'3g's 10,394 kg	72n'3g's 1,134 kg	円/kg	1,182	1,243	円/kg	0.951	949千円/10a	所得税金申告書、営農計画書等により生産コストの削減を検証する。	441.8%	出荷量及び販売額の目標を大きく達成している。事業効果として、出荷量の増加により生産コストの削減が期待される。今後さらなる産地化が期待される。	本事業で機械を導入したことで作業を簡易化し、効率的に作業を行うことが期待される。現状では病害対策等の課題があるため、圃場環境の整備に努めることで更なる出荷量の増加が見込まれる。			
真室川町農業再生協議会	1	真室川町全域	露地野菜(にら)	・「727n'3g's」の導入により堆肥を施用し水田転換畑の土作りを行う。 ・野菜自動収穫機による良質の苗生産、野菜移植機による通期定植により、株養成期間を十分に確保し、安定した生育と収量を確保する。 ・結束機を導入して効率的な「調整・出荷」を行う。 ・予冷機を導入し、品質向上を促進し、鮮度を保持した高品質なにらを出荷する。 ・収穫機の追加導入、横型ビロー包装機、コンプレッサーを新規に導入し、通期収穫したにらを効率的に調整・出荷する。 ・パッカーを導入し、圃場での運搬作業の省力化を図り、効率的に調整・出荷する。 ・「727n'3g's」を追加導入し、水田転換畑の土づくりを行う。 ・ハンマーナイフモアを導入し、圃場の除草から、適切な作付地管理を行う。	販売額の10%以上の増加【11.5%増加】	H 27	81.8万円/10a	29.99 ha	にら 543,728 kg	にら 451 kg	円/kg	1,991	451	H 31	91.2万円/10a	41.75 ha	にら 822,118 kg	にら 463 kg	円/kg	463	463	R1	87.8万円/10a	38 ha	にら 678,469 kg	にら 492 kg	円/kg	517	547	円/kg	0.945	83万円/10a	所得税金申告書、営農計画書等により生産コストの削減を検証する。	12.8%	にらの大規模圃地化形成に取り組みなど経営規模拡大に向けた取り組みも、農家の意向(「おむすび」の夏場の小圃による干ばつ)の影響を受け、実績が伸び悩んでいる。今後目標達成には至っていない。生産量、出荷量を伸ばすため、病害対策の徹底を図る必要がある。関係者が一体となった圃場環境改善や共同作業の推進を図る必要がある。関係者が一体となった圃場環境改善や共同作業の推進を図る必要がある。関係者が一体となった圃場環境改善や共同作業の推進を図る必要がある。	圃地化計画を圃地化形成の中心に面積・収量は増加してきているが、目標達成には至らなかった。目標達成に向けて計画的に圃地化を進めるとともに、収量向上に向けて、圃地環境改善や共同作業の推進を図る必要がある。関係者が一体となった圃場環境改善や共同作業の推進を図る必要がある。			
蛙川村農業再生協議会	2	蛙川村、新庄市	施設花き(バラ、鉢物)	軽装鉄骨ハウスのビニール被覆を1重から2重にすることで、花きの生産にかかりやすくなることにより、生産量の向上を図る。さらに、ハウス暖房機を導入することにより、冬期間鉢花ベンチを活用し、新たな品種を生産することにより、販売額の向上を図る。また、地下排水の追加導入により、灌水効率の向上を促進し、品質の向上を図ることにより、販売額の向上を図る。	販売額の10%以上の増加【14.3%増加】	H 28	9,972千円/10a	3.88 ha	バラ・鉢物 90本	バラ・鉢物 90本	円/本	4,295	593	H 31	11,399千円/10a	3.88 ha	バラ・鉢物 4,825.59本	バラ・鉢物 92本	円/本	92	92	R1	9,474千円/10a	3.88 ha	バラ・鉢物 3,927.55本	バラ・鉢物 94本	円/本	131	125	円/本	1,048	9,972千円/10a	事業実施主体の構成員が決定した後の販売額実績により検証確認する。	0.0%	・本事業における暖房設備や二重被覆の導入が、鉢物の生産量・単価の向上に貢献していることがわかった。 ・バラの生産量減少については、病害発生が原因となった。 ・病害対策の徹底、需要期に合わせた出荷による、安定した経営を図っていく必要がある。	・本事業での暖房設備・二重被覆の導入が、鉢物の生産量・単価の向上に貢献していることがわかった。 ・バラの生産量減少については、病害発生が原因となった。 ・病害対策の徹底、需要期に合わせた出荷による、安定した経営を図っていく必要がある。			
米沢地域農業再生協議会	4	米沢市三沢、産田、六郷、万世地区	大豆	① 乾燥調整に係る高性能調整機の導入による品質の向上 ② 作業受託等による作付面積の拡大 ③ 小粒立で播種技術を実施するとともに排水対策の徹底、畝間灌水による品質等・収量の安定化	販売額の10%以上の増加【10.3%増加】	H 28	24,222千円/10a	2.5 ha	大豆 4,448 kg	137 kg	円/kg	137	137	H 31	26,723千円/10a	10 ha	大豆 19,700 kg	137 kg	円/kg	137	137	R1	78,203千円/10a	3.4 ha	8,790 kg	302 kg	円/kg	160	173	円/kg	0.925	72,327千円/10a	青色申告決算書、作業日誌等の数値から算出	1923.4%	計画策定時は既存の作業受託組織を吸収して面積を拡大する想定だったがうまくいかず、自社の範囲での面積拡大に留まった。面積が計画ほど拡大できなかったため生産量も目標には届いていないが、導入した機械により排水対策等を行ったことにより単収の増加や品質の向上が図られ、成果目標である「販売価格の10%以上の増加」を達成することができた。しかしながら、面積及び出荷量が目標に達していないため、自社の範囲だけでなく、作業受託組織を吸収し面積拡大を図り、出荷量増加するように指導している。	導入した機械により品質低下を防止し、排水対策等を行ったことにより単収の増加や品質の向上が図られ、成果目標である「販売価格の10%以上の増加」を達成することができた。しかしながら、面積及び出荷量が目標に達していないため、自社の範囲だけでなく、作業受託組織を吸収し面積拡大を図り、出荷量増加するように指導している。			

白鹿町農業再生協議会	3	鹿山地区	栗樹(醸造用ぶどう)	①中心的な経営体(ホワイトイーグルス)への農地集約・集積による栽培面積の拡大(3.3ha)。②機械導入による防除及び管理作業の効率化・省力化。③雨よけ用棚・環根の導入による、醸造用ぶどうの高品質安定生産。④サントリーワインインターナショナル株式会社との契約栽培。	販売額の10%以上の増加【82.0%増加】	H28	5.0万円/10a	0.2 ha	醸造用ぶどう 506 kg	醸造用ぶどう 200 /kg	H31	9.1万円/10a	3.3 ha	醸造用ぶどう 12,500 kg	醸造用ぶどう 240 /kg	R1	1.8万円/10a	3.3 ha	2,703 kg	219 /kg	円/kg	決算書等の写しで確認する。	-78.0%	H29に植付した品種も本格的に収穫が増し、導入した機械等を活用し、防除作業及び管理作業の効率化が図られている。しかし鳥獣(タヌキ、ハクビシン等)による被害が多いこと、また甲州(白)が土壌に合わず生育が良くなかったことから収量が伸びず、現状より単収が下がった結果、目標を達成することができなかった。対策として令和2年度、中山間地域所管向上支援事業交付金を活用し、電気柵を設置することとしている。	収穫量が増加し、導入した機械による防除作業及び管理作業の効率化が図られているもの、鳥獣被害や生育不良により収量が確保できず、販売額の減額が顕著を下回った。電気柵の設置等の鳥獣被害対策や品種の変更等の対策も行っているが、引き続き、成果目標の達成に向けて取り組むよう指導した。	実需者との契約栽培を行っているため、価格を固定しているため、価格補正は行わない。			
鶴岡市農業再生協議会	7	鶴岡市七窪	メロン	品質改善と収穫量の増加を目指しハウス用温風機を導入する。	販売額の10%以上の増加【10.0%増加】	H28	91.0万円/10a	1.4 ha	メロン 33,530 kg	メロン 380 /kg	H31	100.1万円/10a	1.6 ha	メロン 42,128 kg	メロン 380 /kg	R1	86.6万円/10a	1.4 ha	メロン 26,040 kg	メロン 466 /kg	円/kg	取組主体ごとの確定申告等を基に平成28年度の販売額と目標年度の販売額を比較する。	-61.5%	高温の影響で正比率が低下し、出荷量が現状年を下回っている。栽培管理を徹底し、出荷量を確保するよう指導した。	今後の栽培にあたっては農業技術普及課等と連携して、流水の確保、高温灌水に備えた対策を徹底し、栽培技術管理を行うよう指導していく。				
鶴岡市農業再生協議会	8	鶴岡市朝日	栗樹(醸造用ぶどう)	降雨による実割や腐敗を軽減し、高品質生産に向けた積雪対応型の棚一体型雨よけ施設の導入	販売額の10%以上の増加【14.7%増加】	H28	17.0万円/10a	0.72 ha	醸造用ぶどう 3450 kg	醸造用ぶどう 357 /kg	H31	19.5万円/10a	1.22 ha	醸造用ぶどう 6585 kg	醸造用ぶどう 361 /kg	R1	9.8万円/10a	1.26 ha	3,740 kg	332 /kg	円	取組主体ごとの確定申告等を基に平成28年度の販売額と目標年度の販売額を比較する。	-288.0%	取組主体1名について、対象面積の半分程度が新たに植付した圃地であり、病害による被害を行ったことから収穫に至っていない。今後、表成の効果が発現する見込みであり、引き続き適切な栽培管理を行うよう指導した。	今後の栽培にあたっては農業技術普及課等と連携して、収穫量増加に向け、適切な栽培技術管理を行うよう指導していく。	本計画における醸造用ぶどうは、実需者との相対取引であり、販売額が市場価格に左右されないことから、産地生産基盤パワーアップ事業実施要領第18の2の規定に価格補正は行わないものとする。			
酒田市農業再生協議会	3	浜中	施設花き(ストック)	パイプハウス及び資材導入による生産量の増加と、安定的な生産体制の確立、需要期に合わせた栽培計画の構築 パイプハウス資材及び機械導入による生産量の増加と、品質の向上を図る	販売額の10%以上の増加【17.6%増加】	H28	1,445千円/10a ※H26-H28平均	4.89 ha	ストック 1,008,550 本	ストック 69.8 /本	H31	1,700千円/10a	5.79 ha	ストック 1,215,900 本	ストック 80.9 /本	R1	2,461千円/10a	3.31 ha	ストック 811,710 本	ストック 100 /本	円/kg	93	90 /kg	1.033	2,533千円/10a	販売伝票の突合による販売額の検証	426.7%	安定的な生産と前々日導入した機械により単収が増え、品質の向上が図られ、成果目標である「販売額の10%以上の増加」を達成することができた。	
酒田市農業再生協議会	4	浜中・袖浦	なす、メロン、トマト、ミニトマト	パイプハウス資材及び機械導入による生産量の増加と、安定的な生産体制の確立	販売額の10%以上の増加【26.0%増加】	H28	1,121千円/10a	5.41 ha	野菜 155,268 kg	野菜 710 /kg	H31	1,412千円/10a	6.03 ha	野菜 197,182 kg	野菜 779 /kg	R1	1,133千円/10a	5.18 ha	野菜 180,288 kg	野菜 326 /kg	円/kg	396	400 /kg	0.990	1,078千円/10a	販売伝票の突合により確認する。	-14.8%	いちごについて近年、気温の高い時期が変わってきており、収穫期・収穫量・品質に影響を及ぼしている。トマトは夏の高温の影響で腐敗、非管理が出て収量が落ちた。夜冷栽培に問題が発生し、対策をしたが効果がなかった。出荷の時期や、出荷を検討し、新たな対策も検討する。それ以外の品目についてはパイプハウスの導入や、堆肥散布機などの導入により、生産量の増加と高品質化に効果があった。	今後の栽培にあたっては酒田農業技術普及課等と連携して、交雑地技術の習得と、処理の時期や期間の検討を踏まえ、徹底した栽培管理を行うよう指導していく。
酒田市農業再生協議会	5	袖浦	ユリ、カラー	パイプハウス資材及び機械導入による生産量の増加と、品質の向上を図る	販売額の10%以上の増加【25.0%増加】	H28	3,838千円/10a	2.51 ha	ユリ、カラー 481,215 /本	ユリ、カラー 175 /本	H31	4,799千円/10a	3.57 ha	ユリ、カラー 911,900 /本	ユリ、カラー 180 /本	R1	2,004千円/10a	6.9 ha	ユリ、カラー 748,478 /本	ユリ、カラー 185 /本	円/本	199	186 /本	1.070	2,144千円/10a	販売伝票の突合により確認する。	-176.3%	カラー、ユリの市場価格低迷と、カラーの球根の状態が悪かったため、出荷数量が減少した。出荷数量に余裕を確保し、可能な限り、新球根を購むし、次作りに取り替える。	今後の栽培にあたっては酒田農業技術普及課等と連携して、出荷量増加と品質向上のため、カラー栽培で新球導入割合を高め、適切な栽培技術管理を行うよう指導していく。

酒田市農業再生協議会	6	袖浦	アスパラガス	パイプハウス資材及び機械導入による生産量の増加と、安定的な生産体制の確立	総販売額の10%以上の増加【12.0%増加】	H28	143,367千円	6.6	ha	72m ² ×3m ² ×108,356	kg	72m ² ×3m ² ×1,323	円/kg	H31	160,517千円	7.17	ha	72m ² ×3m ² ×120,986	kg	72m ² ×3m ² ×1,327	円/kg	R1	143,376千円	7.7	ha	72m ² ×3m ² ×103,266	kg	72m ² ×3m ² ×1,388	円/kg	1,039	円/kg	1,157	円/kg	0.898	128,713千円	販売伝票の空倉により確認する。	-85.4%	平成29年度の病害の影響が続いていることは残念だが、作付け面積が増加し、販売促進や高品質確保に努めている。	今後の栽培にあたっては酒田農業技術普及課等と連携して、茎枯病等の防除対策を徹底し、施肥や立茎等の適正な栽培管理を行うよう指導していく。
酒田市農業再生協議会	7	浜中	落地区野菜(だいこん、ねぎ)	農業機械導入による生産量の増加と適期収穫による高品質化を図る。	販売額の10%以上の増加【25.2%増加】	H28	282千円/10a	13.7	ha	だいこん 5,225 ねぎ 2,604	kg/10a	-	-	H31	353千円/10a	17.1	ha	だいこん 4,500 ねぎ 2,165	kg/10a	-	-	R1	264千円/10a	13.4	ha	だいこん 5,350 ねぎ 2,722	kg/10a	64.7	円/kg	大根 111 露地ねぎ 375	円/kg	大根 73 露地ねぎ 319	円/kg	大根 1,521 露地ねぎ 1,175	361千円/10a	販売伝票の空倉により確認する。	111.3%	大根は販売先が安定しており、品質、収益が上がったが、ねぎについては、収穫機の効果は非常に大きかったが、それ以前にメロン栽培に人手がかり、ネギの定植等の調整作業ができなかつた。会長の不祥事により、3月以降農作業ができない状況にある。構成員の事業継続について、相談することを指導している。	機械導入の効果もあり、結果として単位面積当たりの販売額は向上しているが、今後の栽培にあたっては酒田農業技術普及課等と連携して、出荷量増加に向け、適切な栽培管理と労務配分を行うよう指導していく。

(3) 契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												事後評価の検証方 法(※定量的な検証 ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考	
					現状				目標				実績									
					年 度	面積 単位	総生産量又は 総出荷量 単位	契約取引量 単位	年 度	面積 単位	総生産量又は 総出荷量 単位	契約取引量 単位	年 度	面積 単位	総生産量又は 総出荷量 単位	契約取引量 単位						
鶴岡市農 業振興協 議会	6	山形県鶴 岡市のう ち旧鶴岡 市、旧常 引町、旧 藤島町、 旧朝日 村、旧立 川町、旧 余目町、 旧温海 町、三川 町、酒田 市のうち 旧酒田 市、旧松 山町地区	水稲	・水稲育苗施設の取扱処理量の拡大に伴い浸種水槽を増設して機能強化し、催芽種子、苗の安定供給を図る ・育苗作業の共同化及び取扱処理量の拡大に伴う効率化による農業者の労働負担の軽減を図る ・安価な資材等への変更や育苗作業体系の効率化により施設運営コストの圧縮を図る ・産地全体で環境に配慮した作型の拡大(水稲育苗センターで実施している温湯消毒の取扱処理量の増加に伴う特別栽培等を実施する農家数の増加)を図ることで環境保全型農業の取組みを推進し、契約栽培の増加につなげる	契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上 【10.1%増加】	H27年産における契約栽培の取扱量の割合 44.4%	3614 ha	22,382.8 kg	9,944.90 kg	H30年産における契約栽培の取扱量の割合 54.5%	4250 ha	24,882.0 kg	13,561.5 kg	H30年産における契約栽培の取扱量の割合 54.1%	- ha	23,044.2 kg	12,463.2 kg	H30年産の販売契約書及び販売実績により検証する。	96.0%	目標指標の契約栽培の取扱量の割合は、H27年産44.4%、H28年産45.0%、H29年産53.5%、H30年産54.1%と着実に増加してきたが、目標値の54.5%にはわずかに届かなかった。事前契約の取組を着実に重ねていることから、今後の目標達成が期待できる。	契約栽培の割合は着実に増加しており、目標値には僅かに届かなかったが、概ね目標を達成できた。	
都道府県 平均達成 率	93.8%	総合 所見	<p>対象地区43件のうち未達成が23地区あり、特に野菜において未達成地区が多かった。 水稲においては、土地改良事業による作付面積の減や機械の修繕費等による経費の増で、目標達成に至らない地区があったことから、単位面積当たりの労働費の削減や生産コストの削減の指導をしていく。 大豆においては、連作障害対策等によるコスト増や価格の下落で目標達成に至らない地区があったことから、適期作業、適期防除を徹底して薬剤費や人件費の経費削減や高価格品種の取量の増加や面積拡大に取り組むよう指導していく。 果樹においては、高温・渇水のため生産量が減少し目標達成に至らない地区があったことから、気象災害の影響を抑えるため、高温対策の徹底を指導していく。 野菜においては、病害・降雹・鳥獣被害のため生産量が減少し目標達成に至らない地区があったことから、病害対策の徹底や鳥獣被害対策を指導していく。 花きにおいては、海外産との競争による需要低下や病害の発生による生産量の減少で目標達成に至らない地区があったことから、新たな販路の開拓や生産計画の見直しを指導していく。</p>																			